

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定価：一部30円

2009年9月20日

第317号

障害者自立支援法

どこへいく

理事長 稲松義人

衆議院議員選挙の結果、民主党が過半数を大きく超える議席を獲得し、政権交代が実現することになった。これにより日本の国がどのように変わるのだろうか。多くの国が大きな期待し、また少なからず不安もおもちではないかと思う。

民主党のマニフェストによると、障害者自立支援法は廃止することになっている。確かに問題の多い法律であったが、障がいのある人たちの支援をしている私たちは、それに逆らうことはできず、それに合わせて事業を整え、また将来計画を温めてきた。マニフェストによると、それに替えて新たに「障がい者総合福祉法を制定する」となっているが、もちろんその内容はまだ明らかではない。障害者自立支援法がいつごろ廃止されるのか分からない。さて、来年度の事業計画や予算は何を基にして立てたらよいのだろうか。

また、事務的な手順なども変更され、また対応しないといけないと考えると、うんざりする。もちろん、良い制度ができるのなら、喜んで対応したいと思うが…。

障害者自立支援法の問題点について

は、専門家がそれぞれ指摘している。私も現場での限られた経験からではあるが、いくつか感じてきたことがある。

まず、当事者の支援の必要性を、介護度の高さ(障害の重さ)を軸にした判定によって量ろうとしたところである。ご本人の生活を支援するのに、どのようなサービスが必要かを判断するというところは、本人の経歴や置かれている環境と本人の希望を考慮して、社会的支援の必要性から支援計画を立てるのがよいと感じている。言葉でコミュニケーションができ、身辺自立はほぼ安定で対応に長い時間を要したり、常に言動に神経を使わなければならないかたという場合、支援に当たって相当に労力を使うことになる。心身の状態を把握するために必要があれば医師の意見を聞けばよいが、むしろソーシャルワーカーの専門性の方が求められるのではないかと思う。

しかし、我が国の社会福祉の中で、ソーシャルワークという発想はなかなか育たなかった。社会福祉士、精神保健福祉士等の資格はできたが、専門スタッフとしての養成システムは不完全であると思うし、それらの専門職が専門職ならではのスキルを駆使して働ける場所はあるのだろうか。児童相談所の児童福祉士が、そういう位置づけで働いているかというと、申請されたものを施設に振り分けるだけの仕事をし

てきたのではないかと感じている(実際にはご苦労があることは承知しているが…)。多くの子どもや家庭を見ていると、例えば、このケースはA施設へこのケースはB施設へというような、それなりに判断はできるようになるだろう。しかし、それは、ソーシャルワークとしてはごく初歩的なことのような気がする。

民主党のマニフェストによると、利用者負担を、応益負担から応能負担へ戻すということだ。確かに、基本的な生活のために「障がい」があることで特別にかかる費用を負担してもらうというのは不適切であろう。その為のサービスは「益」ではなく「権利」なのだ。一方、だれでも食事をしたら食事代を払うというのは当たり前のように思う。市場経済のしくみの中で、自分の意思で選択してサービスを受けるときに応益負担の発想がでてくる。しかし、経済的な保障のないところでは、障がいがあるがなかるうが、意思に反して我慢するしかないと思う。

政治には、国民が納得できる枠組みを示して欲しいと大いに期待をする。しかし、私たち自身も、弱い立場にある人たちを支えて、共に生きていける社会をつくる一人として、自分たちの役割を自覚しなければならぬ。自らの意思でそれを志すところに、本来の「自立」の心があるように思う。

夏休み

学齢期のお子さんは、四〇日間に亘る夏休みがあります。今回は、法人内にある三事業所で夏休み期間の支援について報告します。

わかなの夏休み

菅井 克真

浜北特別支援学校が県立移管し新校舎で学校生活がスタートした四月に、オリーブの樹で『わかな』ができました。わかなは特別支援学校に通う子どもを対象に、放課後支援を行なう事業です。四月に事業を開始して、すでに三〇人以上の登録があり、毎日七名の子どもが放課後に施設を利用しています。その子どもたちが始めての夏休みを迎えました。

夏休みを迎えるにあたり私達は、「子どもが不安にならないようにするにはどうしたらよいか」「子どもが楽しく生活できるものが提供できるか」いろいろ考えていました。しかし私達が心配している以上に、お子さんや保護者の方は不安を持っている様子でした。

それぞれの子どもには生活のリズムがあります。わかなを利用する事で生活のリズムが安定する事が大切ですが、それ以上に「新しい環境に慣れる」こ

とが必要でした。そのため、事前に家庭での様子を保護者の方に尋ね情報収集に努めました。利用した際には連絡ノートにその日の様子を書き、家庭との情報交換をし、問題があればすぐに解決するように努めました。子どもの環境を整えることで、少しでも不安を解消することになれば新しい環境にも慣れるのではないかと思い取り組みました。

一方、夏休みの活動内容は、ドライヴに出かけたり、プールを行ったり、雨天時には体育館で運動をしました。プールと体育館については、天竜厚生会浜名寮にご協力を頂き施設内の大きいプールと障害者体育館を貸していただきました。特にプールは一番楽しい時間を過ごしていました。顔をプールに近づけてパシャパシャとしてみたり、時には泳いだりして普段の生活と違う笑顔が多く見られる時間でした。

雨の日はプールが使用できないので、体育館でボール遊びをしたり、かけっこをしたりしました。普段おとなしい子どもも、体育館では楽しそうに職員とキャッチボールをしたり、鬼ごっこをしたりと積極的に体を動かしていました。その他に夏休みの活動としては、「スイカ割り」「パン作り」「映画鑑賞」などを行いました。スイカ割りはオリーブの樹の利用者も一緒に参加し、みんな夏への思い出を作りました。この日ばかりは大人も子どもも関係なく、一

生懸命スイカを割ったり、掛け声を掛けたりして楽しみました。そんな中でも、一番楽しんでいたのは童心に返った職員かもしれません。

夏休みを通じて感じたことは、平日の放課後で子どもたちと関わる時間が少なくお互いに分からない部分が多くあったことです。しかし夏休みの期間中は朝から一緒に散歩やプール・ドライヴ等に出かけ、帰ってきたら食事・おやつなど一緒に過ごす事ができ、お互いに理解し合える時間となったと思います。

九月から新学期で、わかなは通常の日課に戻ります。夏休みで得た経験を活かし、今後の支援に役立てたいと思います。



ドルチェの夏休み

山内 友紀

ドルチェの通常は、浜北特別支援学校の子どもたちを、学校が終わってから一八時までの間、お預かりしています。通常の定員は二名ですが、夏休みの間は、アルバイトの方の協力も得て、一五名に定員を増やし、時間を九時から一六時の一日に設定しています。長期休みの期間は、放課後に利用しない子も利用対象となるため、全体の利用人数が増え、なかなか皆さんの希望通りに利用していただくことができません。利用調整を行う段階では毎回頭を抱えますが、それぞれのご家庭の事情にできる限り配慮し、今年も何とか夏休みのメンバー表を作成し、夏休みがスタートしました。

夏休み期間、毎年ドルチェでは、六階にある展望浴場を借りて水遊びをしています。私達は「プール」と呼んでいますが、実際は「お風呂」なので、浴槽に浸かって動かない子や、水着を着たがらない子もいました。泳いだりシャワーをかけたりして、楽しく、夏らしい時間を過ごすことができました。

二つのグループ



に分けて活動の時間を設けており、他には、昼食作り、おやつ作り、買い物などを行いました。時には、お昼寝タイムもあり、子どもたちのかわいい寝顔に癒され、私達の気持ちの休まる時間ともなりました。

今年も、アンサンブル江之島の施設利用の都合で、水遊びのできない木曜日に、外出の計画を立てました。メンバーを替え、全部で四回、行き先は豊橋市にある「のんほいパーク」です。

広い園内を、暑い中、歩いて回ることに多少の不安はありましたが、低学年の子たちも頑張っけて付いてきてくれ、疲れて座り込んでしまう子も、少しの間抱っこをしたり、交代でバギーに乗ったりすることでみんなと一緒に行動することができました。一日だけ小雨が降ってしまいましたが、他の三日間は天候にも恵まれ、自然史博物館、遊園地、動物園とすべて見て回ることができました。中でも、ペンギンやシロクマのいる所は涼しくて快適、中学部のSくんが歌うと、その声を聞いてか、ペンギンが寄って来るという場面もありました。売店でお土産を買うこともでき、みんなの笑顔いっぱい、楽しい外出となりました。

新一年生の利用も増え、忙しく走り回る夏休みでしたが、子どもたちの笑顔と、成長する姿に支えられ、怪我もなく無事に終えることができ、良かったです。



ぱびるすの夏休み

雨宮 寛

夏休みについて自分自身の子どもの頃を思い出してみると、友達とおもいきり遊ぶことや普段行けない遠くの海や山に出かけることを考え毎回わくわくしながら夏休みを待ちわびていたように思います。

障害のある子どもや家族にとって、夏休みが大変な時期であることは、こ

れまで報告されてきた通りです。例外なく毎年夏休み前には、長い夏休みの過ごし方について相談が激増します。家族旅行は別としても、家族の状況や子どもの障害特性も様々な中で、一ヶ月の長い期間を家庭のみで支援し過ごすことは、大変であることは容易に理解できます。障害のある子どもたちの長期休みの余暇支援は、なかなか解消できない今後も続く大きな課題のように思います。

ぱびるすでは、七月後半から八月にかけて夏期特別デイサービスとして幼稚園、学校の夏休み期間の日中預かりを行いました。実人数で九〇名ほどの子どもたちの利用がありました。年齢的には四才から中学生まで、障害的には、歩行のできない重症心身障害児から普通学級に通う発達障害児まで幅の広い受け入れを行いました。自ずと在席している学校の幅も広くなり知的障害、聴覚障害、視覚障害、身体障害の各特別支援学校と特別支援学級、幼稚園に通う幼児の利用を受け入れました。

開所して間もない施設にこれだけのニーズが集まってくることに、戸惑いを感じながらもできる限りの受け入れを行いました。日常の支援員に加え、前年度も協力していただいた関係から聖隷クリストファー大学の生徒さんにもアルバイトやボランティアで支援の

お手伝いをして頂きました。お兄さんやお姉さんにわがままを言いながら思

いっきり甘え、遊んでもらえることは、子どもたちにとって一番の楽しみのものでした。プールでの水遊びや公園に出かけての遊具遊びや虫取り、川や浜名湖にもでかけての水遊びも行いました。スタッフは前日の夜遅くまで次の日の予定や受け入れの準備をしながらも、当日には朝の会を開き、子どもたちの好きな遊びややりたいことを聞き、子どもたちの思いを優先してプログラムを組み替えました。少しでも有意義な一日、時間が過ぎるよう配慮工夫をし受け入れをおこないました。お迎えにきたお母さんに、「もっと遊びたい、まだ帰らない、明日も来たい」と駄々をこねる子どもたちの様子を見ながら、「ぱびるすの支援は間違っていない」とうれしさを感じる反面、それ以上に受け入れができない現状を残念にも感じました。ぱびるすで初めての夏休み支援を終えて、改めて障害のある子どもたちの余暇支援について考えさせられました。何がしかの手助けがなければ日常を過ごすことができない子どもたちにとって、夏休みの意味をどう考えれば良いのでしょうか。親から聞かれる長期休みの大変さはどう応えれば良いのでしょうか。来年の夏休みまでに誰か正解を教えてください、そんな気持ちにもなりました。

ぱびるすを利用した子どもたちにとって、今年の夏休みが楽しい思い出になって欲しいと願っています。

小羊学園を支える会

二〇〇九年度総会報告

二十一年度小羊学園を支える会総会が八月三〇日(日)午後二時から遠州教会で行われました。開始前には、聖隷歴史資料館制作の「小さい者の一人のために」というビデオを上映し、在りし日の山浦俊治初代理事長の想いを確認することが出来ました。総会には、小林眞支える会代表(遠州教会牧師)をはじめ、遠州教会・浜松教会の会員、日頃ボランティアをしてくださる方、法人役員等、二〇名近くの方が出席しました。議事としては、前年度事業報告・会計報告・今年度事業計画・規約改正・役員選任等が議論され、これまでの支える会の運営や、これからの支



える会のあり方なども確認いたしました。その後、稲松理事長が法人内施設の現状報告のミニ講演を行いました。終了後の茶話会では、出席された皆様からも活発なご意見や提案を頂き、改めて多くの方にお支えいただいていることを実感しました。

三方原スクエアの建築特別募金の報告

建築費の高騰などで資金不足に陥り、急遽一昨年に2億円という目標を設定して、皆様に協力をお願いしてまいりました建築特別募金のご報告が遅くなってしまいました。支える会の総会でもお礼を申し上げましたが、あらためて紙面で報告させていただきます。

目標額 200,000,000円
寄付金額 126,354,722円

【内訳】

小羊学園家族会の寄付 70,000,000円
支える会建築指定寄付 25,286,068円
一般寄付からの充当 31,068,654円

多くの皆様にご支援頂き、感謝申し上げます。未達成分は銀行借入で補いました。今後も償還金がありますので、引き続きご支援頂けます様お願い申し上げます。

表紙の法人ロゴマーク

小原愛美さんがデザインされ、二〇〇七年からホームページや、名刺に使っています。小羊をイメージしながら、四葉のクローバーをアレンジしています。



つばさ静岡プール改修工事に助成をいただきました

静岡県共同募金会の“NHK歳末たすけあい”から96万円の助成をいただきました。改修を終え、利用者がより安全に水遊びができるようになり、ご支援いただきました皆様に感謝申し上げますと共に、ご報告させていただきます。



暑い夏でも、涼しく！気持ちよく！
過ごせました

編集後記

学齢児の一ヶ月以上におよぶ長い夏休みが終わりました。この間、在宅で支援する保護者の方にとっては、毎日が悪戦苦闘だったことでしょうし、今は何とか今年の夏も乗り切れたと安堵の様子だと察します。法人内の放課後支援事業所三拠点でも、なるべく多くのお子さんを受け入れ、楽しい夏休みが過ごせるよう支援してきました。今回の中面特集はその報告です。

小羊学園を頼ってくるお子さんの大半は障がいのある方たちですが、それらのご家庭やお子さんが安心して暮らせる仕組みを学校・地域・家庭が連携して考えていかなければと感じます。

新型インフルエンザの蔓延が迫りつつあります。健康管理に留意して、お過ごし下さい。

(F)

小羊学園を支える会

2009年度寄付金報告

8月受付分 526,200円 (34件)
累計 2,950,623円 (189件)

小羊学園への寄付金振込み先

(口座名義)「小羊学園を支える会」

郵便振替口座 00890-4-45415

りそな銀行浜松支店 (普通) 040005

静岡銀行細江支店 (普通) 043483

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局(鈴木)

三方原スクエア内 ☎053-414-1833